SOUND CHECK for PLAYER

ジャンル別ジャスト・ギター・セレクション

プロダクト・コンセプトを知ると、自分のギターが見えてくる。

音楽は、ギターを選ぶことから始まっている。腕をあげたいのなら、演りたいジャンルの音楽で最高のパフォーマンスを発揮するギターを手に入れることだ。そこで、ジャンル別ジャスト・ギター・セレクション。楽器に託されたメッセージをチェックしながら、ベストギターを探して欲しい。

HARD ROCK GUITAR CONCEPT

ディストーションこそハードロックの命。

■Body⇨ソリッド

ハードロックならではのギター・サウンドといえば、深く歪んでサスティーンの効いたハード・ディストーション・サウンドだ。アンプでゲインをフルに上げたり、エフェクターでハードな歪みを作るが、近年ではアンプとエフェクターを併用して更に深い歪みを求めるプレイヤーも増えてきている。このようなセッティングの場合、ホロウ・ボディのギター(セミアコ、フルアコ等)は、ボディ内部の空洞のためハウリングを生じ易い。ハードロックのプレイヤーがソリッド・ボディのギターを選ぶ第一の理由は、ハウリングしにくいからだ。ホロウ・ボディでハードロックできない事はないが、ハウリングと戦うのは大変辛い。また、ソリッド・ボディはサスティーンの点でも有利だ。ホロウ・ボディのギターは生音が大きい。これは弦振動がギター自体で音響エネルギーに変換されるためで、その分ピックアップから伝えられるサスティーンは減ってしまう。これに対しソリッド・ボディは弦振動がより効率良くピックアップに伝えられサスティーンが得やすい。ハードロックにソリッド・ボディが選ばれる第二の理由がこれ。

ソリッド・ボディの構造には、大きく分けて2通りがある。まず、トップにメイプル、バックにマホガニーを配した構造。RGZとRGXとMBの上級機種、IMAGEとSGの全機種に採用されている。これはブリッジからの弦振動を、固いメイプルがボディの隅々まで伝え、バックの柔らかいマホガニーがボディ全体を豊かに振動させる、という伝統的手法。もうひとつは、バスウッドやマホガニーという鳴りの良い一種類の木材のみを使った構造。その木のキャラクターを100%活かすものだ。メイプルトップ/マホガニーバックは太く粘りのある音、ワンマテリアルは腰のあるストレートな音、という違いが出る。が、いずれもハーモニックトーン、タッピング等、ハードロックならではの技を忠実に音に再現できる。ハードな歪みに泣きのニュアンスや粘りを求めるギタリストには前者が、カラッとしてストレートなパワーを求めるギタリストには後者がおすすめだ。

■Neck Joint⇨スルーorボルトオン

ネックとボディの接合法は、ギターのキャラクターを決める大きなファクター。サスティーンの点からいえば、何といってもスルー・ネックがベスト。ネック材がボディ・エンドまで伸びた構造で、ネックの延長がそのままボディの一部になっているため、弦振動のロスが少なくサスティーンがあり、サウンドはカラッとしたストレートなキャラクター。RGX、SGが採用している。構造上、ハイポジションの演奏性が極めて良い。

スルー・ネックに次いでハードロックに向くのがボルトオン・ジョイント。ネックをボディにボルトで接合する構造で、ネック材とボディ材とのコンビネーションが独特のカラフルなトーンを生む。RGX、RGZ、MGが採用している。ヤマハはジョイント部にスーパープレイアビリティ・ジョイントシステムを導入、ボルトオンでありながらスルーネック並みのサスティーンとハイポジションの演奏性を持っている。ローポジションからスタートして、20F近くのハイポジションで劇的にソロをまとめ上げる事の多いハードロッカーには、これらのネック・ジョイント方式が最適。

■Tremolo⇨ロック式

ハードロックの華麗なソロプレイ、トリッキーなフレージングに欠かせないのがトレモロアームだが、トレモロアームには大きく分けて2通りの方式がある。まず従来からあるオーソドックスなヴィンテージタイプ。もうひとつが近年普及してきたロック式のタイプだ。後者はもともと、アーミングに付きものだったチューニングの狂いを最小限に押さえるために考案されたもので、ナット部とブリッジ部で弦をボルトで締めつけて固定する方式だ。従来のヴィンテージタイプよりも少ない動きで大きくピッチ変化させる事が可能になり、ロックのスタイルを大きく塗り変える事になった。ヤマハのロック式アームはRokin' Magic－Ⅱ、RMX－Ⅱ、Rokin' Magic－Proの3タイプ。Rockin' Magic－Ⅱ、RMX－Ⅱはロック式アームの定番、ナイアエッジ式2点支持で、アーミングとピッチ変化の一体感は抜群。Rokin' Magic－Proは支持部にローラーベアリングを採用し、アーミング感覚と耐久性を更に向上させた新タイプだ。なお、どのタイプも、ここ数年急速に普及してきたアーム・アップが可能なマウント方式を採用している。

■P.U.⇨LIVE、FOCUS、SPINEX YAMAHA SELECT by EMG

ハード・ディストーションで太音量で弾くハードロックでは、クリーン・サウンドの時よりもずっと過激な条件でも忠実に働くP.U.が求められる。たとえば、P.U.自体が原因で起こるハウリングを最小限に押さえるとか、ハイ・ゲインで深く歪ませてもピッキングのニュアンスを残し、各弦の分離が良い等だ。ヤマハのP.U.、SPINEX、LIVE、FOCUSは、これらの条件を確実にクリア。それぞれのP.U.のキャラクターを、ハード・ディストーション/大音量で難なく発揮してくれる。これらのP.U.は全てハードロック向きだが、特に最新のロックシーン、イクイップメントにマッチするのがLIVEとFOCUS。LIVEは、シングル、ハムバッカーともに、中域に張りのある粘りのある音、FOCUSはレンジが広い感じのカラッとした音だ。ボディとのコンビネーションによるが、泣きやパワー感を求める者にはLIVE、ストレートからヒステリックまで幅広い音作りにはFOCUSが向くだろう。より粘りや広さが欲しい者はSPINEX、より爽やかな音が欲しい者はYAMAHA SELECT by EMGも良いかも知れない。

■P.U.アレンジメント⇨HSH&SSH

イクイップメントの進歩で、シングルコイルP.U.でも十分な歪みを得られるようになって来てはいるが、やはりハードロックの主流は、リアポジションのハムバッカーによるハード・ディストーションだ。これを中心にどのような音のヴァリエイションが欲しいかで、自分の欲しいP.U.コンビネーションを選びたい。おすすめしたいのはHSHとSSH。現在最もポピュラーなスタイルだ。それぞれハムバッカーは、バイサウンドSWでシングルとして機能するから、HSHはSSH、SSSと同等の、SSHはSSSと同等の音作りができる。どちらを選ぶかは、フロントポジションの使い方による。クリーンでジャズ的な音や、フロントハムの歪み音がどうしても欲しいのならHSH、そうでなければSSHが良いだろう。なお、フロントがいらないならSH(RGX－611J)というのもあるし、センターのシングルの音や、シングルのハーフ・トーンがいらないのならHHも良い。

Bolt-On-Neck
(Super Play Ability Joint System)

Rockin' Magic-Pro

"LIVE" Series P.U.

BEST HARD ROCK GUITAR

- SG-RR series
- SA-RR custom
- IMAGE series
- SG series

●RGX series
Photo:RGX-612J

●RGZ series
Photo:RGZ-Ⅱ

●MG series
Photo:MG-Ⅱ R

R&R/BEAT GUITAR CONCEPT

タイトなビートがロックンロールの原点。

■Body⇨セミホロウorソリッド

R&Rやビート系でのギター・サウンドは、クリーンとディストーションの両方だが、ファット&メローよりはタイト&シャープ、サスティーンよりは歯切れ良さが求められる。リズム、ソロともに、音の太さや伸びよりも、リズミックなアタック感が必要という訳だが、浅めのディストーションサウンドで、チョーキングの粘りも欲しくなってくる。これらの要求を満たすのが、セミホロウ・ボディと、ワンマテリアルのソリッド・ボディ。また音の粘りのためには、ネックとのジョイントはセットイン・ネックがベストだ。

セミホロウ・ボディならコンパクトなSASと、R&R専用に開発されたSA-RRがピッタリだ。SASはセミホロウボディのスタンダードギターSAの音をシャープにアレンジした音。SA-RRはオールマホガニーによるセミホロウ構造でありながら、独特のフラットトップ・シェイプのためホロウ・ボディの豊かな音と、ソリッド・ボディのタイトな音とを使い分ける事ができる。

ソリッド・ボディなら、マホガニー・ワンマテリアルのソリッド・ボディ、SG-RRが良い。ストレートでアタッキーなトーンは、エレクトリックギターのスタンダードなトーン。特に軽い歪みでのリズミックなプレイでは最高のR&Rフィールを出す事ができる。

なお、これらの材質は全てセットイン・ネック構造。マホガニー・ネックとボディとのコンビネーションが独特の粘りのあるトーンを生む。

■Tremolo⇨アームレス

リズミックにバッキング、ソロを展開していくR&Rやビート系にはアームは不要。タイトでシャープなニュアンスのストップ・テールピースやフラットアジャスタブルタイプのブリッジのギターが良いだろう。SA-RR、SG-RRのブリッジは、各弦の弦高/オクターブの調整を独立してアジャストできるフラットアジャスタブルタイプ。ブリッジ駒下部のプレートがボディに密着している点と、弦をボディ裏から通す方式とでシャープなサスティーンと、程良いテンションという、R&Rに最適のサウンドとタッチを生む。

■P.U.⇨ピエゾ、RR-Standard

R&Rやビート系のサウンドに意外にマッチングの良いのがエレアコの音。レンジが広くブリリアントなトーンは、小人数のバンドでも曲の展開をカラフルに演出できる。SA-RR、SG-RR Customは、ブリッジの駒部に新設計ピエゾP.U.をマウント。エレクトリック・ギターにエレアコのニュアンスまで表現させる事に成功した。ピエゾP.U.は、マグネチックP.U.のような倍音のデッド・ポイントがなく全てのレンジの弦振動を忠実に拾うため、素直で拡がりのあるトーンを生み、エフェクトのノリもマグネチックP.U.とは一線を画するものがある。加えて、ピエゾ/マグネチックのコンビネーションは、R&Rやビート系に新たな可能性を開いたと言えるだろう。

歯切れと粘り、という表現が一番ピッタリなのがSG-Standardにマウントされた RR-Standard P.U.。シングル構造だが、一般のシングルコイルP.U.よりはハムバッカー寄りのトーン。軽い歪みの音は60～70年代を思わせる独特のルーズなものだ。

■P.U.アレンジメント⇨HH、HS、SS、

ハーフトーンを使ったり、ハード・ディストーションをかけたりせず、各P.U.の個性を活かす音作りが特徴のこのジャンルなら、P.U.のアレンジメントはシンプルな2P.U.タイプがベスト。SA-RRはフロントがハム、リアがシングルと、ハード・ロック向けの配置とは逆になっているが、実はこれがR&R独特のサウンドヴァリエイションを得るポイント。また、SA-RR、SG-RR Customはピエゾをマウントしている点も見逃せない。

Set-In-Neck

Piezo P.U. on Bridge

BEST R&R/BEAT GUITAR

- IMAGE series
- SG series
- SAS series

RR-Standard P.U.

●SG-RR custom

●SG-RR standard

●SA-RR custom